

岡山大学広報

いちょう並木

OKAYAMA UNIVERSITY MAGAZINE



OKAYAMA
UNIVERSITY

始動! グローバル・ ディスカバリー・プログラム



1 JANUARY
2018

Vol. 88



CONTENTS

世界を変えるための17の目標達成に貢献します。

岡山大学×SDGs

岡山大学の研究誌

都市・地域計画学、環境計画学

広い世界で活躍する岡山大学の学生たち

学都基金の紹介 / OUNAVI

さまざまな言葉が飛び交って
ここが日本というのを忘れるくらいです(笑)。

志望したのは、このプログラムそのものにとても魅力を感じたからです。もともと私は、幼稚園から小学校まで岡山で暮らしていました。その後、家族とハワイに移住、再び暮らすことになった岡山の街は懐かしさでいっぱいです。教室では、英語や中国語が飛び交って、ここが日本というのを忘れるくらい(笑)。食事は好き嫌いなく何でも食べています。シェアハウスにベトナムの友達がいて、本場のフォーを作ってくれたり、お互いの部屋に行って遊んだり。将来は「●●人だからこういう性格…」といった偏見や、コミュニティに入れない異文化で苦しんでいるマイノリティを支援するカウンセラーになりたいです。国として注目しているのは中国。ディスカバリーでしっかり学んで一度は住んでみたいと思っています。

RISA (リサ) [日本]



日本のこともっと知りたい、理解したい。世界中のどこへでも行ける可能性を生かしたいと思い、志望しました。もともと長崎生まれの福岡育ちですが、中学、高校の6年間はハワイで過ごしました。実際に岡山に来て、このディスカバリーで学んでみるとやりたいことが多過ぎて…(笑)。イメージ的には日本の中にアメリカのシステムがある感じですね。将来について今思っているのは、これから時代、さまざまな問題は一つの国だけでは解決できないということ。世界の平和や安定も一人のリーダーだけではなく、多様な人々によって支えられるものだと思っています。だから、私もそういう人になりたい。卒業後は世界中を飛び回りたいですね。電気自動車の開発など、地球温暖化の対策にも興味があります。そのためにも、いずれは世界の情報や人が集まる東京やニューヨークで暮らしたいと思っています。

MICHELLE (ミシェル)

[アメリカ]



地球環境など、世界を取り巻くさまざまな問題。
それらを解決できる人になりたい。

2017年10月に第一期生として入学した16の国と地域からの31人の学生たち。グローバル・ディスカバリー・プログラム(通称:ディスカバリー)を目指した動機から実際に暮らしてみて感じる岡山での生活、プログラムへの感想やそれぞれが抱く将来の夢・目標など、ディスカバリー一生のままの素直な声をレポートしました。

始動!



フレキシブルなカリキュラム、充実した施設、
そして優しい先生方。すべてが想像以上でした。

今、20歳ですが、岡山に来る前は本国で医学を勉強していました。志望した理由は二つあります。一つ目は多様性を尊重したプログラム。二つ目は岡山という穏やかな環境に魅力を感じたことです。日本に来て数ヵ月ですが、すべてが想像以上です(笑)。フレキシブルなカリキュラム、先生方も学生の声を真摯に聞いてくれます。これほどまでに自由度が高く、柔軟性に富んでいるとは…正直驚きました。また、岡山大学がこんなに大きくて、最先端の実験室がこんなにも充実していることも想像を超えていました。これから、ビジネスマネジメントやソーシャルビジネス、文化人類学などを学び、医学的な知識を生かしたノンプロフィットの組織を立ち上げて、リトアニアと日本はもちろん、ヨーロッパも視野に入れたグローバルな展開を目指しています。



KRIS (クリス) [リトアニア]

グローバル・ディスカバリー・プログラム

～世界から岡山へ。第一期生たちが抱く期待と夢・目標 etc.～



NANDA (ナンダ) [インドネシア]

ディスカバリーなら自然科学と社会科学を同時に学べると知り、岡山大学を志望しました。文化人類学という学問を日本という視点から見てみたいと思ったのも動機の一つです。あと岡山は世界レベルで見るとあまり知られていませんが、それだけに日本人本来の生活を見るのもいいですね。こちらに来てみて、岡山大学が外国人に対してとても親切で温かいのに驚きました。プログラムも学生の思いをくみ取ってくれたものでとても民主的です。入学後に参加したオリエンテーション研修では、たくさんの日本人ともフレンドリーに交流しました。ラジオ体操やうどん作りも楽しかったですね。将来はいろいろな経験を積んで、ジェンダー・難民問題に取り組むアクティビストになりたいと思っています。

日本人本来の生活に触れるができる岡山。
将来はジェンダー・難民問題に取り組むアクティビストに。

グローバル・ディスカバリー・プログラム

岡山大学から世界へ。広がる可能性とその魅力



2017年10月からスタートした「グローバル・ディスカバリー・プログラム(通称:ディスカバリー)」。これは、世界中から集まった留学生や帰国生たちと岡山の地で一緒に学ぶ、岡山大学独自の国際プログラムです。学部や学科の枠にとらわれず、本人の学びたい意志を最大限に尊重しながら、より自由かつ実践的な学びを通じて、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。今回、ディスカバリーの設置準備室室長として設立に携わった中谷文美副学長にディスカバリーの主旨と魅力、今後の可能性について語っていただきました。



多様性と向き合うことで グローバルに活躍できる力と 感性を育てます。副学長 中谷 文美

ディスカバリーのキーワードは「多様性」です。10月に入学した31人の学生は、中国、インドネシア、日本、台湾、マレーシア、ネパール、ロシア、リトアニア、ガーナなど16の国と地域から来ています。日本語がすでに堪能な学生もいれば、初めて学ぶ学生もあります。さらに既卒者が多いなど、バックグラウンドも多様性に富んでいます。

教員集団も多様性というキーワードがぴったりです。日本をはじめ、パンゲラシア、インド、中国、韓国、アメリカなど、国も経歴も専門領域も多種多様な14人の教員がディスカバリーを支えます。男女比が半々であることも特徴の一つです。つい最近まで海外の大学にいた人も多いので、いい意味で常識にとらわれず、このプログラムで新しい可能性を追求しています。

学生たちを癒す岡山の穏やかな人と自然。 学生と教員の距離も近い。

開設して1ヶ月が過ぎたあたりで、新入生たちの感想を聞いてみると、岡山をすぐに入っています。都会過ぎず、田舎過ぎず(笑)、自然が豊かで安心できるであります。でも、初めて外国で暮らす不安はあるでしょうし、少人数の授業に積極的な参加を求められながら、課題もこなす毎日はハードなはずです。

岡山大学に来たことが人生のターニングポイントになったと言っている学生がたくさんいます。日本人学生に加え、いろいろな国的学生たちと同級生になれたことも喜んでいますね。入学後すぐに吉備高原都市で実施した1泊2日のオリエンテーション研修では、どのグループも本当に楽しそうで、イキイキしていました。



グローバル・
ディスカバリー・
プログラムの
詳細はこち

国際的に活躍する人材はもちろん、 世界と日本をつなぐ人材にも期待したい。



准教授
PRAJAKTA KHARE
(プラジャクタ カレ)



教授
味野道信

担当科目は基本的に経済経営系で焦点と進め方もさまざまです。また授業や研究とは別に私は日本で外国人として過ごした13年間の社会的、文化的、経済的、教育的な経験についても話したいと思っていました。大切なのは、ディスカバリーでの学びと日本でのいろいろな経験を自分の国に持ち帰った時に人々が提供できるのかを考えながら、しっかりと自分の興味のある分野を勉強し、良いキャリアを作ることです。このプログラムの「グローバル」とは、それを表していると思います。

全學ガイダンスⅢ(10月生用)と日本語2を担当しています。全學ガイダンスでは学生たちが岡山で生活し、岡山大学で他の岡大生と同じように勉強できるようするために必要なことを何かを考え、内容を取り扱います。日本語2では岡山にいる学生には理学系を中心で学んできた学生には文系を中心で学んで違う視点を文系を中心に学んでいます。ディスカバリーが始まってからは講義中に発言を求めるなど、とにかく学生たちの反応が早い。彼らが素晴らしいので、ずいぶん助けられています。学生たちには、今ある好奇心を保ちつつ、先達が考えてきたことを身に付けながら、自分が発想でものを考えられるようになって欲しいと思っています。

授業に関しては、ディスカバリー生向けの基礎物理実験(このほかに各学部で卒業研究を目指す「マッチングアドバイザー」)を担当しています。学生たちは入学までのさまざまな経験、体験を共有し、感心しながら、互いに刺激しあう学生生活(「プログラム」)になることを期待しています。世界から岡山の地に集まつて、互いが触媒となって新しい何かを創造し、その経験を手に卒業後は再び世界に飛び立つください。



教授
味野道信

ポイント 1

「自分の学び」が実現できる 独自のカリキュラム

履修アドバイザーと相談しながら、学ぶ意欲や関心、将来の目標とマッチした科目を選択し、履修プログラムを作成。学部や学科といった既存の枠組みにとらわれない自由な学びで、新しい時代を切り拓く力を育みます。

ポイント 2

徹底した言語教育

プログラムの共通言語は英語です。入学直後からレベルに合わせたアカデミック英語の授業が行われるため、着実に英語力が身につきます。母語が日本語ではない学生には、日本語集中プログラムを用意しています。

ポイント 3

学生同士の協働・学び合いを大切に

授業は、グループディスカッションやプレゼンテーションが中心。さまざまな文化背景や経験を持つ学生同士が協力し、学び合うことで、多文化への感性や課題発見力を高めます。

ポイント 4

実践知の重視

地域やNPO、企業などと連携し、フィールドワークやインターンシップを導入。大学の学びを生かし、実際に現場で課題解決の道筋を探ることで、社会で役立つ実践的な力を養います。グローバルな視野を育むために海外留学も推奨します。

岡山大学 × **SDGs**

国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を「存じですか？

ニュースなどで、SDGsの言葉を見聞きしたことがある人もいるのではないでしようか。でもまだまだ聞き慣れない言葉かもしません。

岡山大学では、全学を挙げて、SDGsの達成に貢献する活動を進めています。

そこで今号では、SDGsと岡山大学の取り組みについて紹介します

SDGs って何？

SDGs（エスディージーズ）は、2030年までに持続可能な社会を目指す世界のマスター・プランです。国連は2015年9月、「国連持続可能な開発サミット」を開催し、「我々の世界を変革する持続可能な開発のための2030アジェンダ」を探査しました。このアジェンダでは、人間・地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）」が定められました。

SDGsの対象は発展途上国だけではなく、先進国も含めた全ての国々です。貧困・気候変動や環境保護、不平等、インフラ、エネルギー、消費・生物多様性、海洋・産業化といった世界のあらゆる課題に対処しながら、2030年までに持続可能な社会を目指す、世界全体の大きな目標です。



横野 博史学長に聞く SDGsと岡山大学。

なぜ岡山大学が取り組むのか？

としての実績を持つています。岡山大学は07年、アジアで初めてユネスコチエア（持続可能な社会を創造していくための人材育成を目的としたプログラム）の認定を受け、「岡山ESDプロジェクト」に参加し、活発に活動を展開してきました。この岡山でしかできない特色ある取り組みを継続し、SDGsと共に鳴る文化が岡山にはあります。ユネスコチエアを持ち、ESDを推進してきた岡山大学には、岡山地域や国際社会と一緒にSDGsを推進していく素地と責任があります。

より良い未来のために

2017年8月には岡山大学と日本学術会議若手アカデミーで、SDGsについて理解を深めるシンポジウムとワークショップを開催しました。

岡山大学には素地と責任がある

岡山市を中心とする地域は ESD（持続可能な開発のための教育）を推進してきました。2005年に世界初のRCCE※に認定され、14年には世界各国のESD関係者が参加した世界会議の開催地

SDGsに関する
岡山大学の行動指針

岡山大学は、その理念・目的の下、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく。



SDGsに関する
岡山大学の専用
WEBページは
こちら



●2017年度岡山大学SDGs活動実績



将棋

【通】

学の電車の中、大学、家でも将棋のことを考える。将棋について考えない日はありません」と笑顔で話すのは、岡山大学将棋部で部長を務める羽仁豊さん(法学部3年)。2017年5月には、大学生の将棋大会で最高峰とされる「学生名人戦」で初出場ながら準優勝に輝いた。3月にも全国大会の一つ「学生将棋選手権大会」で準優勝しており、大舞台での活躍が続いている。また、羽仁さんは、「学生将棋連盟主催の中四国学生将棋大会」で現在6連覇中。「富士通杯」や「学生王座戦」といった全国大会の常連でもあり、個人・団体ともに実力派揃いのチームもある。

小学生の頃、インターネットで対局できるネット将棋に出会ったのが羽仁さんの原点。同じ駒でも指す人によって個性があると気づき、世界中の人と対戦する面白さを知ったという。画面越しだけでなく、盤面で指す感覚や駒を手に持つ感覚を大事にしたいと、中学では将棋部に入部。近所の将棋道場にも通い始め、常連客の指導を受けな

がら棋力を磨いていった。

高校生の頃、当時から強豪として有名だった岡山大学将棋部に憧れを抱き、オープンキャンパスに参加した際には思い切って部室を訪ねたことも。「大學生はすんなりと受け入れてくれ、将棋を指導して打ち解けました」と思い出を語る。

高校から大学にかけて、全国大会の出場が増え、北海道から九州まで、たくさんの学生と交流の幅が広がった。今も大会が近づくと、インターネットで対局して手合をする。大会となると最短でも1試合1時間半ほどかかり、集中力が必要だ。長く集中力を保つためには、「場面に応じて考えるところと考えないと、このメリハリが大切」という。

そんな羽仁さんの強さの秘訣を

将棋部

羽仁
豊
はに ゆたか
法学部 3年



学生たち



広い世界で



岡山大学の



水泳部
中尾
駿一
なかお しゅんいち
マッチングプログラムコース 4年

自由形の泳ぎを見直し、水を大きくかき、テンポも意識して効率化を追求。また、上半身の筋力トレーニングにも熱心に取り組んだことが「うまくはまつた」と中尾さん。1年間で1秒も短縮したといつから驚きだ。

2017年は日本選手権や、台湾で開かれた世界の学生の大会「ユバーシアード」で日本代表として出場したほか、愛媛国体などでも活躍した。50メートルの自由形、バタフライ、背泳ぎでは日本で3番以内と自負する。

夢は2020年の東京五輪だ。「日本の泳ぎが世界で戦えることを五輪の舞台で見せたい」と熱く語る。さらなる進化と飛躍へ、もちろん、突然結果が出たわけではない。これまでの

競泳

Swimming

を塗り替えた。

「一チやトレーナーはおらず、練習メニューは自ら考る。強豪校では「一チがいるのが通常で、驚かれる」ともしばしば。自分で気づかないところは、自由形の選手だった父の助言を頼りにしながら、冷静に泳ぎを分析する。

中学時代は得意の背泳ぎで地元岡山県の中学生記録を樹立するなど輝かしい成績を修めたが、高校生から大学2年生にかけて全国大会で予選落ちが多く、良い成績が出て苦しんだという。転機は、大学3年生の2016年に訪れた。日本選手権の50メートル自由形で自己記録更新となる22秒台をたたき出

【国】内屈指のスプリンター」と称されるほど、競泳短距離界をにぎわせる選手が岡山大学にいる。水泳部の中尾駿一さん(マッチングプログラムコース4年)だ。182センチの長身を生かしたダイナミックな泳ぎと、後半の伸びが持ち味で、泳ぐ速さは日本一とされている。2017年9月には、日本学生選手権(インカレ)の競泳男子50メートル自由形で2連覇を達成。22秒02をマークし、大会記録を塗り替えた。

東京五輪の舞台で

日本の泳ぎを見せたい。



羽仁豊

はに ゆたか
法学部 3年

将棋部

尋ねると、A-I(人工知能)とのコンピュータ将棋を挙げてくれた。最近では、プロ棋士がA-Iとの「電王戦」で敗れるほど圧倒的な力を持つA-I。「人間が考えつかないような手を差してくれる。なるほど」と思って勉強になりますね」と研究熱心さを覗かせる。

今後もずっと将棋を続けていきたいという羽仁さん。盤上を見つめ、あらゆる一手から最上の一手を探る日々はこれからも続していく。

Swimming

地域・社会とともに、真のグローバル人材を育成する 岡山大学学都基金

～ご賛同いただいた企業様からのメッセージ～



内山工業株式会社
代表取締役社長 内山 兼三



内山工業は、地元岡山を起点に全世界で事業を展開しています。「岡山大学学都基金」の掲げられている、「イノベーションの創出、学都創成、グローバル化の推進」の高い理念に賛同し、活動に協力して参ります。世界で活躍出来る人材の輩出に向けた同基金の充実と岡山を含め、日本のさらなる活性化に期待しています。



岡山放送株式会社
代表取締役社長 中静 敬一郎



私どもOHKでは、過去2回にわたって米国元国務長官であるキッシンジャー博士の来日講演を岡山大学と連携して実現しました。これからも岡山の地でグローバルな活動が継続されること、そして学都基金を通じ、あらゆる分野で未来の岡山、さらには世界で活躍する人材がたくさん輩出されることを願っています。



岡山県医師会
会長 石川 紘



全、岡大OB諸氏の学都基金への参画に強い期待を寄せています。この企画は学都に相応しい岡山大学の歴史と環境をもって、更に世界に羽ばたく活躍を約束しています。基金活動を通して愛校心と期待を同じくする岡大OBが、わけ隔てなく旧交を温めることにも期待しています。



株式会社トマト銀行
取締役社長 高木 晶悟



当社は企業のお客さまに対し、ライフステージに応じた最適な「本業支援」を推進しています。岡山大学とは、平成19年に産学連携に関する包括協定書を締結し、産業界の発展や人材育成の推進等を連携項目に盛込んでいます。この学都基金を活用され、地域の中心的リーダーとして活躍されることを期待します。



岡山トヨタ自動車株式会社
代表取締役社長 梶谷 俊介



地域に開かれた岡山大学を目指した学都構想が3代の学長の手を経て、実りの時期を迎えることを大変うれしく思います。経済界や市民団体や行政と共に進行する事業も増えてきました。学都基金の創設を契機に地域課題を解決する互恵の関係がさらに深まり、おかやまの魅力を共に創り、世界に発信できる大学になることを期待します。



中国建設工業株式会社
代表取締役 松尾 一昌



本社は、創業からの信念である「夢を持ち続け、夢を追い続けることでは大きくなれる。」の言葉どおり、夢と人の成長が大切であると考えており、また地域と密着し、地域と共に歩む企業を目指しております。これは、様々な社会の課題に対応できる人材の育成、地域・社会との連携に力を入れられている岡山大学と相通じると思い学都基金へ賛同いたしました。



株式会社アン・ドゥー
代表取締役 中村 二郎



学都基金創設により研究開発など岡山大学の発展に繋がればいいと考えています。また、岡山の発展の為に少しでも役に立てばいいと思い、岡山では初めてのプロサッカーチームのファジアーノ岡山にもスポンサーとなり応援しています。世界でも認められるような大学になり誰もが憧れる大学になるためにも今後も協力していきたいと思っています。



アイサワ工業株式会社
取締役社長 逢澤 寛人



ここ岡山の地が、日本のみならず世界のイノベーション創出の拠点として今後更なる発展を遂げるため、国際交流と社会・地域貢献という岡山大学学都基金の果たす大きな役割に、期待しています。創業以来百有余年、社会資本整備を担ってきた当社も、国土の発展と皆様の安全で安心な生活のため、引き続き力を注いでまいります。



浅野産業株式会社
代表取締役社長 浅野 益弘



岡山大学は、創立70周年に向け、国際的な学術都市「学都岡山」を創成し、グローバル人材の養成やイノベーション創出の拠点形成に取組んでおられます。岡山発の意義ある取組であり、世界をリードする教育・研究の拠点となり、地域に役立つ人材を育成し、さらに発展することを期待して、弊社も応援させていただきます。



株式会社マルイ
代表取締役 松田 欣也



グローバル人材の育成に期待します
国際的な教育・研究の拠点を目指し、岡山大学の教育・研究開発・社会貢献活動の中で、グローバルな人材育成は必須です。学都基金を有効に活用いただき、地方経済を担う有望な人材育成はむろん、世界に羽ばたく人材育成に期待します。



岡山大学学都基金



倉敷化工株式会社
代表取締役社長 竹下 仁



世界に通じる人材育成へ期待

企業の構成要素のうち、人材は企業の力となるものです。企業のグローバル化が進む中で、グローバル人材は企業活動を支える重要なファクターであり、「岡山」だけでなく「世界」に向けてビジネスを発展させていく上の強みとなるべき存在でもあります。学都基金の充実により、岡山大学が世界トップレベルの研究・教育機関として、世界に通じる人材育成を通じて地域企業ひいては岡山のさらなる発展へ貢献してくれることをより期待しております。



岡山県貨物運送株式会社
代表取締役社長 遠藤 俊夫



「岡山大学学都基金」の設立目的である、イノベーション創出、学都創成、グローバル人材育成推進などに加え、地方経済の発展を担う優秀な人材の輩出を期待しております。



丸五ホールディングス株式会社
代表取締役 藤木 達夫

⑤丸五ホールディングス

近時各大学が特色を持った取組みを拡げている中でも、「岡山大学学都基金」は国内外の優秀な学生を岡山という地方に集め、地域と世界を繋ぎ、国際的水準の研究・事業支援を目指すというユニークな試みです。学都基金に集う人材が岡山のみならず、日本・世界でおおいに活躍していただけることを期待しています。



池田電業株式会社
代表取締役 池田 正治



社会が変遷する中、求められる人材も変わってきます。岡山大学学都基金は今までに求められている真のグローバル人材を地域・社会とともに育成しようというものです。現在すでに国内外で活躍されている卒業生の方々に敬意を表し、今後とも、地域社会の発展の為、大きく貢献していただくことを心から期待しております。



株式会社林原
代表取締役社長 森下 治



NAGASE Group

全ての分野でグローバル化が進む現代において、林原はバイオの先端企業の一つとして、積極的にこの大きな潮流に対応してグローバル化を進めていく考えです。こうしたことから、地元において真のグローバル人材を育成する岡山大学の発展に、大きな期待を寄せた学都基金にご協力させていただきました。



蜂谷工業株式会社
代表取締役社長 蜂谷 泰祐



急速に進む社会や産業界のグローバル化の中、産業・文化・教育・医療の中核を担う高度な専門職業人の育成において貴学への期待は一段と大きくなってまいります。本基金の活用により学生の留学支援など国際交流の強化や教育・研究の一層のレベルアップが実現され、社会の発展にますます寄与されることを期待しています。

お問い合わせ

岡山大学学都基金事務局(総務・企画部総務課) 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel:086-251-7009 [電話受付 9:00~17:00(土・日・祝日除く)] Fax:086-251-7294 E-mail:kikin@adm.okayama-u.ac.jp

寄付金の申込方法

左記連絡先に、住所・氏名をお知らせください。折り返し、パンフレット等を送付いたします。パンフレットに同封の振込依頼書から振込手続きをお願いいたします。インターネットからの申込も可能です。学都基金の詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/kouhou/kikin/>

岡山大学学都基金

検索





空家対策で産官学が「おかやま空家対策研究会」を発足

PROJECT

本学や岡山市、倉敷市、金融機関など産官学で地域の課題解決に取り組む「おかやま地域発展協議体」は8月17日、空家の対策や利活用を協議する「おかやま空家対策研究会」を発足しました。

同日行われた初会合では、大学院環境生命科学研究科の氏原岳人准教授が独自の調査結果をもとにした報告や提言を行ったほか、岡山市、倉敷市の担当者が空家の現状などを紹介。参加した会員と、現状の問題点や今後の議論の方向性について話し合いました。



平成29年度 秋季岡山大学入学式、 大学院入学式を挙行

CEREMONY

本学は10月14日、秋季入学式を創立五十周年記念館で挙行しました。10月からスタートしたグローバル・ディスカバリー・プログラムの31人を含む、計113人の新入生が、大学生活の第一歩を踏み出しました。

横野博史学長による式辞では、「新入生の皆さんとともに、『実りの学都』を創り上げていくことを期待しています。皆さんは新しい門出に立っています。一步前に踏み出し、新しいことに挑戦してください」と英語で祝福しました。



名古屋大学との 大学間協定調印式を開催

CEREMONY



名古屋大学と本学は9月29日、革新的ながん治療法である「ホウ素中性子捕捉療法」(BNCT)の実用化に向け、大学間協定を本学津島キャンパスで締結しました。

名古屋大学の松尾清一総長を招いて開催した調印式では、松尾総長と横野博史学長が協定書に署名し、笑顔で固い握手を交わしました。

今後さらに共同研究を推進し、国際原子力機関(IAEA)や他の研究機関とも連携してBNCTの世界標準の確立を目指します。

8月

- 9日 ●在大阪オーストラリア総領事館デイビッド・ローソン総領事が来学
- 21日 ●本学が機構長を務める国立六大学国際連携機構がタイ・バンコクに国立六大学バンコク事務所を開所
- 22日 ●スーパーグローバル大学創成支援事業外部評価委員会を開催
- 31日 ●異分野基礎科学研究所の沈副所長・教授が「三木記念賞」を受賞

9月

- 9日 ●異分野基礎科学研究所の沈副所長・教授が日本植物学会の学術賞を受賞
- 15日 ●岡山大学・フ工大学院特別コース第11期生入学式を挙行
- 27日 ●岡山大学が優良学校交通自治会として表彰
- 29日 ●平成29年度秋季学位記授与式を挙行

10月

- 13日 ●ベトナム・カントー市訪問団が横野学長を表敬訪問、岡山大学病院視察も
- 14日 ●平成29年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行
- 18日 ●本学教員4人が科研費審査委員として日本学術振興会から表彰
- 31日 ●若手トップリサーチャー研究奨励賞小塚准教授、菅准教授を表彰

軟式野球部が33年ぶりの全国大会で見事ベスト4入り!

CLUB ACTIVITY



第40回全日本学生軟式野球選手権大会が8月27~31日に奈良県で開かれ、本学軟式野球部が見事ベスト4に入りました。本大会には、全国の各地区リーグを勝ち抜いた14チームが出場。同部は1回戦で東海学院大学に3対0で勝利し、ベスト8に進出しました。準々決勝は前年度優勝校の中央大学と対戦。8回に歴本将吾副主将(工学部3年)の3塁打で作ったチャンスに、赤枝孝治主将(経済学部3年)の一打で1点をもぎ取り、大金星を挙げました。準決勝は大和大学との対戦で、序盤からチャンスを作るもあと一歩のところで得点が奪えず、惜しくも準決勝で敗退しました。

漕艇部が全日本大学選手権大会「男子舵手付きフォア」で13年ぶりの表彰台

CLUB ACTIVITY



本学漕艇部は、8月31日~9月3日に埼玉県で行われた第44回全日本大学選手権大会(インカレ)に出場し、男子舵手付きフォアの種目で3位に入賞しました。インカレの同種目で表彰台に上がるには、同部が全国制覇を果たした2004年以来13年ぶりの快挙です。本大会では、予選で出場全クルー中のトップタイムを出すなど順当に勝ち進み、日本大学、仙台大学、慶應義塾大学との決勝レースでは、強豪の日本大学、仙台大学のクルーと最後まで首位を争い、僅差で3位入賞となりました。



岡山から国連の持続可能な開発目標「SDGs」を考える! シンポジウムとワークショップを開催

SYMPOSIUM

本学と日本学術会議若手アカデミーは8月31日~9月1日、国連の持続可能な開発目標「SDGs」について理解を深めるシンポジウムとワークショップを開催しました。

シンポジウムでは、政策研究大学院大学の有本建男教授らによる講演やパネルディスカッションが行われ、参加者らはSDGsに取り組む学術の在り方や、岡山の地に根ざした取り組みとその役割について理解を深めました。また、横井篤文副理事・上級UGAより、今年度内に継続して日本学術会議や国連機関等と連携したSDGsに関連する企画を開催していくことが公表されました。

「高度実践人」の認定証を授与

AWARDS

本学では、実社会で適切な判断をくだすことができる能力を持ち、世界で活躍できる「高度実践人」を全学部から82人選出しました。その代表として5人の学生に対し、10月10日、横野博史学長より認定証が授与されました。

授与式後に行われた懇談では、横野学長から「皆さんには岡山大学の代表として、実践の現場でグローバルに活躍していただきたい」との激励があり、学生からは「インターンシップや留学での経験をもとに、それぞれの分野でグローバルな視点を持って社会に貢献したい」との決意が語られました。

PICK UP! 大学院ヘルスシステム 統合科学研究科が4月からスタート

平成30年4月から、新しく「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」が始まります。

学生が学部や修士課程までに学んだ専門分野(工学・医療・保健・人文社会等)の知識や技術を軸しながら、さらにその垣根を越えた学際的な教育・研究を行います。医療・福祉の現場など、社会のあり方や課題を見つめ、それに対して学術や科学の知見を活かし、人々と一緒に新たなものづくりや社会の仕組み作りができる人材を育成することが、本研究科の目標です。

Information



カフェスペース
「indent」がリニューアルオープン！
Delicious Bread

Renewal Open!



[営業時間] 11:00～16:30 ④土日祝

津島キャンパス大学会館のカフェスペース「indent」がリニューアルし、落ち着いた雰囲気のくつろぎ空間に生まれ変わりました。

注目は新メニューの焼きたてパン。総菜系からスイーツ系まで、バリエーション豊富なパンが常時10種類ほど並びます。曜日ごとに種類が異なり、108円からの値段設定もうれしいポイント。

また、ハラル認証を受けているパンもあり、オープンも使い分け、留学生などのニーズにも対応しています。



新メニューの
焼きたてパン



うれしい
定番メニューも
あります。



オムハヤシ(432円～)

午前11時のオープン前には、パンを焼く芳しい香りが大学会館周辺を包み、思わず来店したこと間違いない。もちろん、定番人気メニューのビーフカレー(259円～)、ハヤシライス(280円～)、オムライス(378円～)、オムハヤシ(432円～)はそのまま。カフェメニューには、カフェラテ(151円)、カフェモカ、キャラメルラテ(ともに216円)などもあります。

このほか、本物の金魚鉢を使った金魚鉢パフェ(2,800円、3日前までに要予約)は“インスタ映え”するほど目を引くサイズ。大人数でシェアすることもでき、サークル仲間で注文する学生も。

リニューアルに伴い一人掛けのカウンターや、ゆったりとしたテーブル席など一人でも大人数でもくつろげる空間が出来上りました。

お気軽にお立ち寄りください！

一人でも、
大人数でも
くつろげる
素敵な空間。



岡山大学生協



岡山大学広報 いちょう並木

より良い広報誌を作成するために、皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしております。

発 行：岡山大学 総務・企画部 広報・情報戦略室

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

Tel. 086-252-1111 Fax. 086-251-7294

E-mail www.adm.okayama-u.ac.jp

<http://www.okayama-u.ac.jp>

岡山大学

検索

